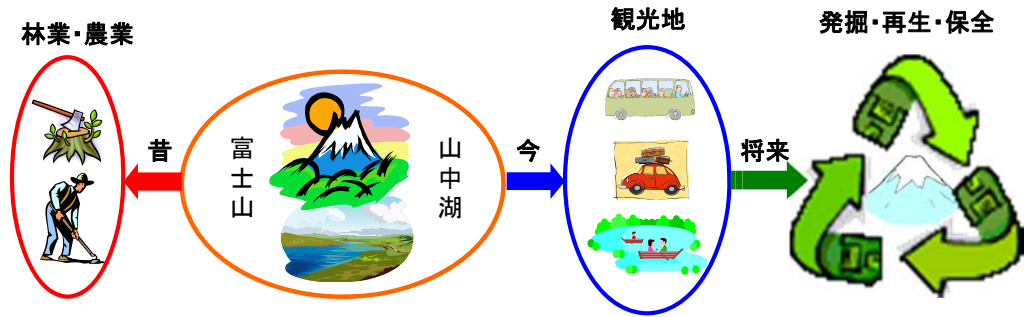


やまなかまちづくり委員会



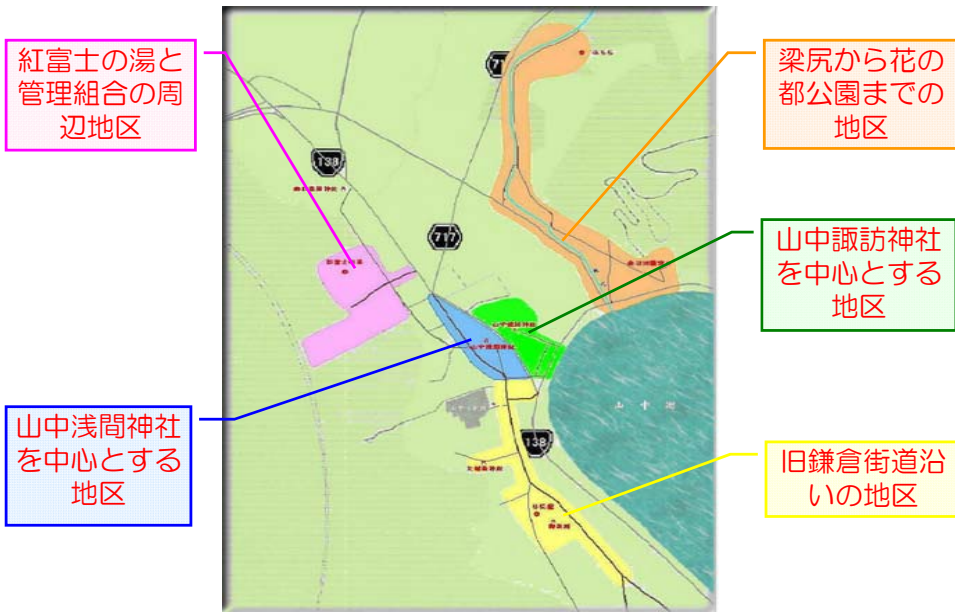
やまなか まちづくり Work Shop

『やまなか まちづくり』基本コンセプト

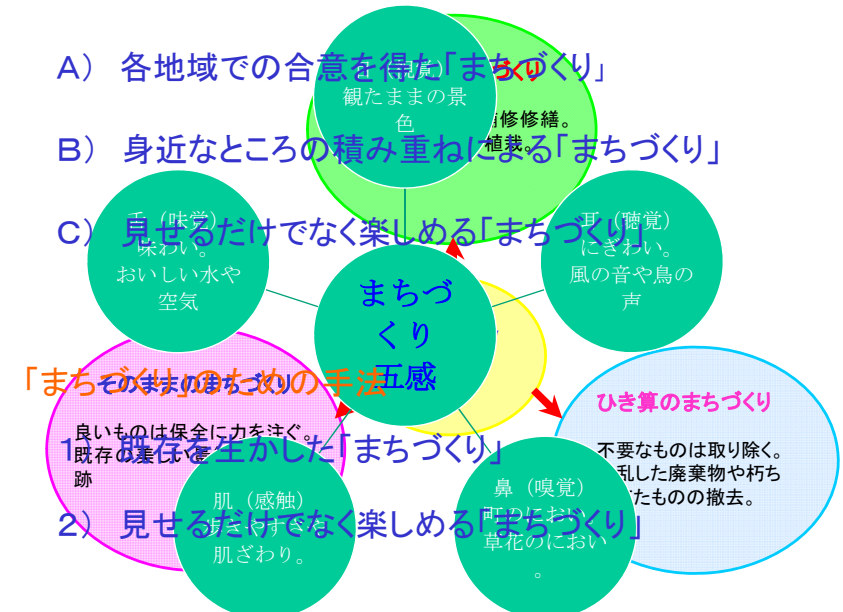


「自然・歴史・風土・文化・景観・生活空間」など私たちが抱えている地域に対する思いを**確認・発掘・再生**し、将来の世代に身近なものとして残していくこと、増やしていくこと、そして地域のコミュニケーションを図り、多くの人々の参加による「まちづくり」を目指します。

やまなか地区まちづくりとしての構想



どのような「まちづくり」をしたらいいのか？





梁尻通り入口
既存の林をつかった
そのままの「まちづくり」



梁尻通りに入って、すぐ左側にある林。
榎の木・ブナなどの巨木が多く、野鳥も数多くおり、なかには巨木の枯れ木にキツツキが巣を作っているのも観られます。
林の中を下刈りをすれば、聴覚・視覚・感触などが刺激され、すばらしい森林浴の場になることでしょう。

時間

・保全するだけなので時間はほとんどかからない

費用

・ボランティアでの作業では費用はかからない。
・下刈り等で多少の費用。



梁尻通りブロック塀を改修した プラスの「まちづくり」

緑が多くあり、自然環境がとても良く、非常に心地よい通りですが、一部ブロック塀が廻りの自然環境と調和せず残念です。
手軽にできる手法としては、下の写真のようにツタ等の植栽・塀の塗りかえ等が考えられますが、できれば改修時に自然石を腰下位積み上げ、その上に植栽、または周辺に調和した生け垣などをつくりたいものです。

時間

・植栽・塗り替え補修程度では短期
・ブロック塀の生垣化程度では中期

費用

・植栽・塗り替え補修程度では少ない費用
・ブロック塀の生垣化程度では多少の費用



既設廃屋をつかった プラスの「まちづくり」

古い家屋でも、雰囲気の良い建物は、ちょっと手を加えて、オープンカフェなどに再利用できると思います。多少の費用はかかりますが、古い建物の不思議な雰囲気は新築ではなかなか、かもしだすことはできません。使い方によっては、オープンカフェ、案内所、土産物屋など、その地域の拠点にもなってくるのではないのでしょうか。

時間

・古くなった建物を改修するので、新築よりは時間はかからない。

費用

・改修工事ではあるが、最小限の改修であれば、新築より費用はかからない
・下の写真のようにテラス・芝のガーデン等まになると、大きな費用。



不要なものをなくす マイナスの「まちづくり」

看板等の塗りかえや不要物の撤去など、する気になりさえすれば、すぐにでも美しい景観をつくることができます。
看板等の脇にでも雑草ではなく、香りの良い植物などを植えると、前にたったときに、良い香りがして心地よいのではないのでしょうか。

時間

・不要な物の撤去はすぐにでもできる。

費用

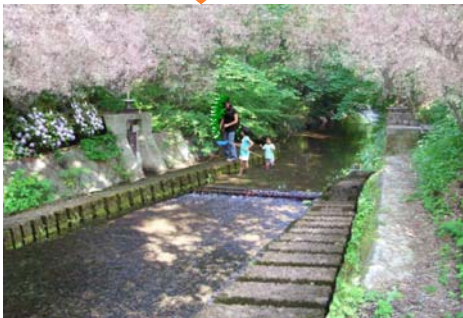
・少ない費用しかかからない。





既設の河川に手を加えた プラスの「まちづくり」

桂川の流れです。水門と川辺におおいかぶさる木々……以前にはホタルも飛び回るこの周辺での一番いい雰囲気を感じだしている場所だと思いませんか？
できれば、もっと川辺に近づきたくありませんか？
ここに、「水と緑」をテーマに親水歩道・桜などの植栽を整備したら……その一帯は、水と人の接近が感じられ、ゆったりとした時間に満ちると思いませんか？
……今のままでは、せつかくの豊かな自然環境が手の届かない存在のままです。多少の時間と費用はかかりますが、地域住民、また山中を訪れる人々にとっては、大きな価値のあるものになるでしょう



時間

・河川なので、工事・許可等で時間はかかる。

費用

・おおきな費用はかかりますが、将来を見据えたなかでは、大きな価値がある。
・植栽なら少ない費用しかかからない。



桂川への流出口に手を加えた プラスの「まちづくり」

山中湖から桂川への流出口は、昔から魚取り・水遊びなど、地元の子供達のかっこうの遊び場として人気のところでした。
しかし、現況は川に入るのにハシゴをかけて下りたり、子供の遊び場としての整備はされてなく、どちらかといえば危険な場所ではないでしょうか？
この場所を下の写真のように、自然石などを敷き詰め、親水公園として子供の遊び場としての整備することができたら、もっと子供達が自然に親しめることではないでしょうか。



時間

・河川なので、工事・許可等で時間はかかる

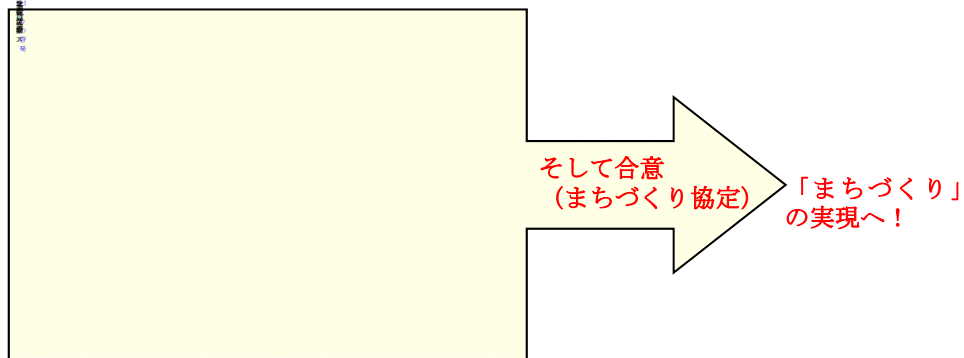
費用

・おおきな費用はかかりますが、将来を見据えたなかでは、大きな価値がある。
・植栽なら少ない費用しかかからない。

3: 「まちづくり」の実現には？

啓発活動を通し、学習し合意(まちづくり協定)に達するまで

- 1) アンケート等をもとにして、共通の課題を認識して話し合う。
- 2) アンケート・話し合いの結果をもとに基準をつくり、長期展望のなかで発展させることが「まちづくり」のスタートになる。



4: Work Shopとパタン・ランゲージによるまちづくり手法

ワークショップ (work shop) とは？

本来 ワークショップ (work shop) とは、「作業所」や「工房」を意味する語ですが、今日では「体験型の講座」を指すことが多い系体です。

体験型の講座の意味でのワークショップは、問題解決やトレーニングの手法であり、近年は企業研修や住民参加型まちづくりにおける合意形成の手法としてよく用いられている。

住民が中心となって、地域の課題を、解決しようとする場合に、ワークショップ手法がよく用いられている。具体例としては、「まち歩き」「まち体験」などの活動や勉強会の開催であり、その活動が次第にプログラム化されていく中で、まちづくりワークショップとして定着させてゆく手法。

近年では、KJ手法（データと、カードの記述し、それをグループごとにまとめ、図解し、まとめていく手法）やデザインゲーム（模型を用いたまちづくり）などの手法が多用されるようになり、さらに住民の合意形成技術として注目されている。まちづくりワークショップの、効果として期待されるのは、参加者同士の体験共有、意見表出、創造表現、意見集約その他のコミュニケーションを深めることが期待される。

パターン・ランゲージとは？

パターン・ランゲージは、カリフォルニア大学の環境デザイン学部建築学科教授のクリストファー・アレグザンダーが提唱した建築・都市計画に関わる理論です。

人々が「心地よい」と感じる環境（都市・建築）を分析して、253のパターンをあげ、パターンが集まり、それらの関連のなかで環境が形づくられます。

パターンの例としては、「自立地域」「商店網」など町のコミュニティを定義する広い部分からはじまり、次に「複合建物」「座れる階段」など個々の建物や建物間の空間を定義するパターンなどがあり、「まちづくり」のルールを決める際に役に立つヒントにもなっています。

美しい街や住まいには、共通する普遍的なパターンにより創られているというもので、かつては誰でも知っていましたが、急激な近代化のなかで忘れられてしまいました。

建物を撤去したまっさらな土地に広い街路を造り、高層ビルを建てる、といった近代都市計画の理念とは正反対の発想であり、既にある道・狭い路地・神社や目にとまる植栽、窓からの眺めといった「ヒューマン・スケールな要素を重視」して計画を進め、住んでいてよかったという実感を心から感じ、次世代にも継続が期待できる「まちづくり」ができる手法であります。

5: 「まちづくり」協定とは？

都市計画法・建築基準法

各市町村の条例・要項

国内一律に適用される

日常生活の視点から考えると

最低限の約束事

まだまだ「大きな枠組み」

毎日の生活の中から提案されたもう少し細かなまちづくりへの要求を整理し、自分達の住む地域を自分たちの手で住みやすい環境に育て上げていくための「住民同士の約束事」

まちづくり協定

6: 「まちづくり」協定の内容

まちづくり協定 → 緑化協定・建築協定・景観協定・看板協定等いろいろ例があるが、決まった形式はない。

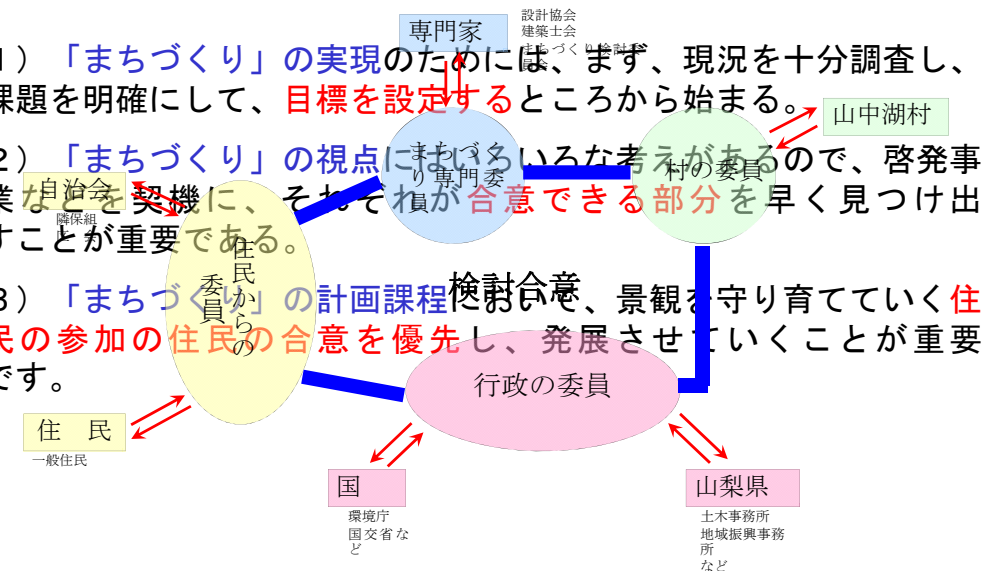
まちづくり協定 → その地域の住民が中心となり、自治の精神と創意をもって、それぞれの地域の事情や目的に応じて自由に締結される。

まちづくり協定 → 運営については、「まちづくり協定」住民同士の良識の中で、ある程度の幅を持ちながら進め社会の状況や価値観の変化など、場合によっては見直しをしなければならない。

また、さらなる目標実現にあたって、協定成立後も、運営を役員だけに任せてしまうのではなく、住民一人ひとりが「まちづくり」の主体であることを忘れないで徐々に努力していくことが大切である。

7: 「まちづくり」実現に向けてのしくみづくり

- 1) 「まちづくり」の実現のためには、まず、現況を十分調査し、課題を明確にして、目標を設定するところから始まる。
- 2) 「まちづくり」の視点にいろいろな考えがあるので、啓発事業などを契機に、それぞれが合意できる部分を早く見つけ出すことが重要である。
- 3) 「まちづくり」の計画課程検討合意、景観を守り育てていく住民の参加の住民の合意を優先し、発展させていくことが重要です。



山中まちづくり委員会での取り組み（ホームページ作成）



PC用



スマホ用

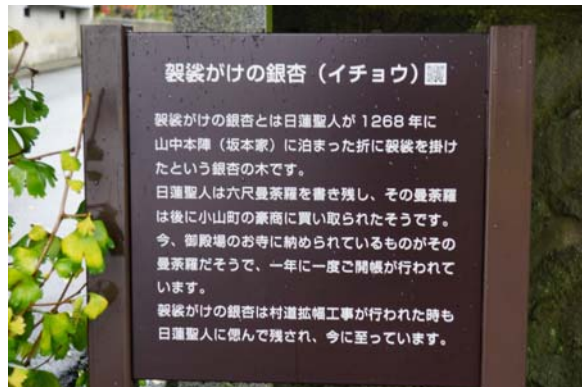


ガラケイ用

山中まちづくり委員会での取り組み（マップ・看板の作成）



山中まちづくり委員会での取り組み（マップ・看板の作成）



山中まちづくり委員会での取り組み（紅葉祭りで竹灯籠1）



山中まちづくり委員会での取り組み（紅葉祭りでの竹灯籠2）



山中まちづくり委員会での取り組み（安産祭りでの竹灯籠1）



山中まちづくり委員会での取り組み（安産祭りでの竹灯籠2）



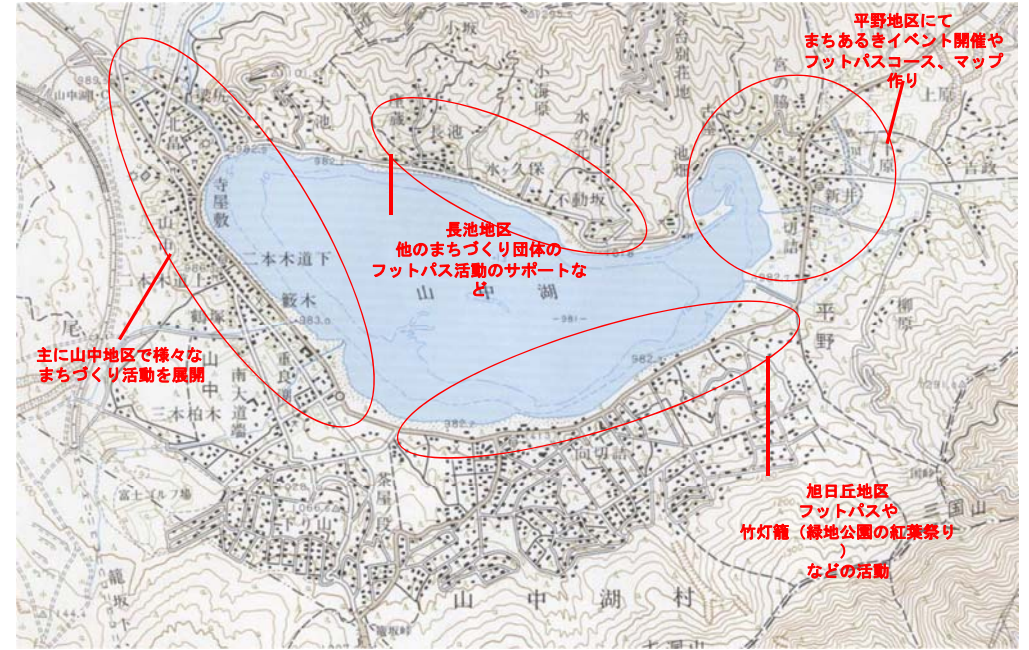
山中まちづくり委員会での取り組み（山中口留番所跡保存）



山中まちづくり委員会での取り組み(山中口留番所跡保存)



村内全域でフットパス活動を展開



山中まちづくり委員会での取り組み(フットパス)



山中まちづくり委員会での取り組み(フットパス)

富士五湖フットパス
フォーラム

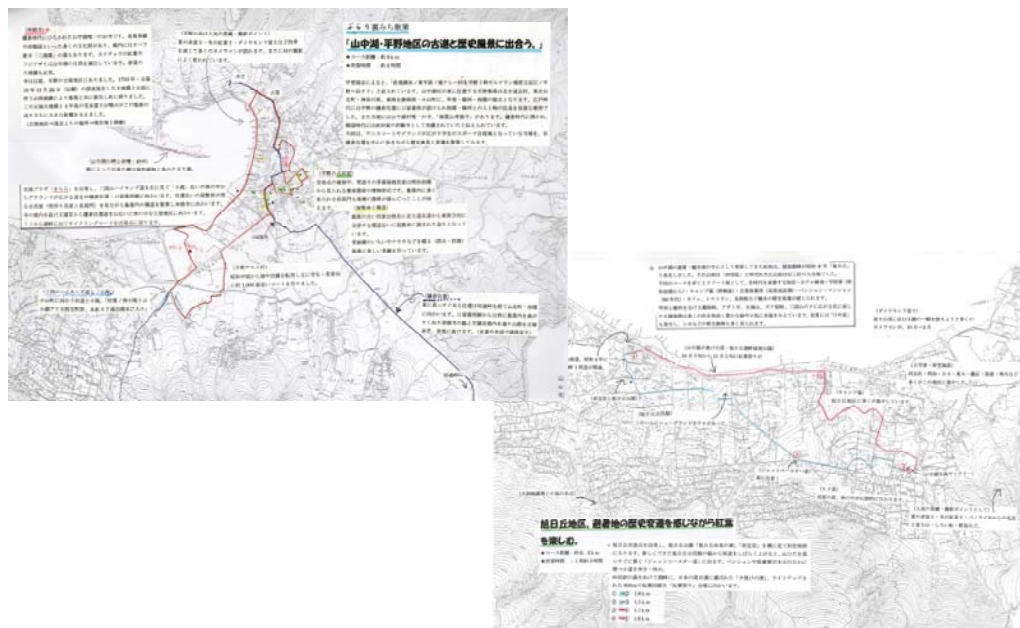
4月17日(月)
15時~16時半
山中湖村情報創造館研修室
どなたでも自由 参加できます 無料

お問い合わせ

山中湖・平野地区の古道と歴史風景に出会う

ふらりまち歩き フットパス

山中まちづくり委員会での取り組み(フットパス)



山中まちづくり委員会での取り組み(縦道の整備)



山中まちづくり委員会での取り組み(ベンチとフラワーポット)



山中まちづくり委員会での取り組み(ベンチとフラワーポット)



山中まちづくり委員会での取り組み(ベンチと花植え)



「まちづくり」の先進地 長野県 小布施町



「まちづくり」の先進地 三島市 源兵衛川



やまなかまちづくりの理念

まちを歩くといろいろな風景に出会います。ある風景が嫌ならば、なんとかしようと思うものです。それが「まちへの欲求」です。「まちづくり」は、この欲求からはじまります。

「まちづくり」の主役は、一人ひとりであり、地域住民のみなさんに景観への関心を高めていただくことが「まちづくり」の第一歩です。

そして、一人ひとりが異なった価値観を持ちつつも、互いに尊重しあい、地域住民、行政、または区会等で十分意見交換をかさねたうえで合意し、ひとつのものをつくりあげてゆくことが何よりも大切です。

このまちづくりをきっかけとして、地域住民の方々や行政が協調しあい、その地域の「まちづくり」「景観づくり」の手助けとして役立てば幸いです。

やまなかまちづくり委員会



やまなか まちづくり Work Shop